

第50回環境安全委員会 議事要旨 (案)

1. 開催日時 2024年3月25日(月) 15:00~17:06
2. 開催場所 ホテルイースト21 東京 東陽の間
3. 出席者 森口委員長、村山副委員長、中杉委員(WEB)、佐古委員、織委員(WEB)、馬締委員、佐藤生男委員、佐藤信夫委員、高村委員、森田委員、横山委員、加納委員、(環境省)切川課長補佐(WEB)、村井課長(順不同)
4. 議事(公開)

【議題1】東京PCB処理事業所 2023年度の処理・設備保全の状況及び今後の処理見通し
資料1に基づき JESCO より説明の後、主な質疑応答等は以下のとおり。

- 委員 資料1の8~9ページに記載された2024年度、2025年度の予想台数は、実績に基づくものか。徐々に件数が減り、発見していくのは大変難しい段階であるが、未処理のコンデンサー、変圧器、廃油等の掘り起こしについて、どのように取組んでいるか。
- JESCO 2024年度、2025年度の計画の数値は、今年度の4月から2月までに発表された数字をベースに来年及び再来年に同様に推移するとして計上した数値。先程、3月度の新規登録台数を補足説明したが、今後どの程度発見されるかの判断は難しい。掘り起こしは計画的に様々な産業界に対して網をかけて発見に努めてきた。今年度、新たに発見された物は全体としては非常に少ないが、3月に100台は多く感じる。引き続き得られた状況・情報は速やかに環境省にも伝えつつ、新規発見に努めているところ。
- 委員長 補足で質問するが、今回、新規に変圧器が発見された会社は、変圧器以外に、コンデンサー、廃PCBも発見されている。特定の会社で、まだ埋もれている可能性があるか。
- JESCO 既に自治体等が所有している各種データを活用し、自治体と連携して掘り起こしをしてきており、やり尽くした状況にあるが、依然網にかからないものとして、今回発見された。当該会社は、50~60年ほど前から操業する変圧器のリース会社。先ほど申し上げたとおり、網から外れた。リース業界には、社団法人リース事業協会があり、過去、PCBに関する周知徹底がされているが、当該会社は当該協会に加盟していない。また、当該会社の発見経緯は、元々、保管中であった低濃度コンデンサーの片付けの際、倉庫の奥から大量の高濃度物を発見した極めて特殊な事例。今後、このような事例が発生しないかは難しいところ。
- 委員 昔から事業をしている会社であり、今と違う意識で管理されていたと思う。今後も類似事例が発生し得る。ぜひ掘り起こしを工夫されたい。
- JESCO 引き続き自治体等と連携して対応する。
- 委員 今回、初めてリース会社の名を聞いた。丁寧に掘り起こしをすることが重要。他にもリース会社はあるのか。
- JESCO インターネットで検索すると、他にも変圧器のリース会社は存在する。PCB対応をしていると記載のある社もある。
- 委員 根気よく丁寧に進めることが重要。引き続き注意喚起を促し進めていただきたい。
- 委員長 処理期限間際の発見は、先に処理を終了した北九州事業などでもあった。掘り起こしにあたっては留意していただきたい。他の事業所でリース業者での同様な事例はあったか。また、業種によって意識の低いところへの対応はできていたのか。
- JESCO リース業は様々な業種がある。各業界に対しては、これまで環境省経由で各通知を発出し、一定の成果は出ている。引き続き、しっかりと関係機関と相談しながら根気よく掘り起こしを実施する。

- 委員 東京事業所での処理が終了した後に発見されたものは、基本的にはJESCOではなくて環境省の方で検討する話である。
- JESCO 補足説明をする。今年度末、他事業所では大量の新規発見はなく、東京事業の当該案件は特殊な事例。情報は常に環境省に伝えており、環境省からも関係省庁と相談していただいているところ。
- 委員長 申告ベースでは廃棄物の把握は難しい。想像力を働かせて、東京エリア内に未把握の業種がないか調査をしていただきたい。

- 委員 資料1の4枚目のスライドに2023年度の水熱分解設備ナンバー2の稼働日数が示されているが、2024年度の見込みはどうか。かなり減るのか。
- JESCO 処理予定量は少ないため、水熱分解設備は来年度も1基運転の予定。現在、ナンバー1とナンバー2はスタンバイ状態、ナンバー3は休止状態。次回の定期点検後、ナンバー1を1年間、安定操業する予定。
- 委員 ナンバー1はどのような状態か。
- JESCO ナンバー1は、昨年5月、6月の定期点検を終えて健全な状態で保存。次の法定点検後、大きな整備をすることなく立ち上がる予定。

- 副委員長 資料1、13枚目のスライドに解体廃棄物は低濃度とあるが、PCBが低濃度という意味か。
- JESCO 低濃度とは、低濃度PCB廃棄物として無害化処理認定施設に払い出すもの。対象設備は2つ。1つは低濃度PCB処理施設から出る該当性判断基準以下のPCB廃棄物。もう1つは高濃度PCBを扱うリン含有PCB前処理設備で高濃度PCBを低濃度PCBに下げたのちの廃棄物。

- 副委員長 今後、解体廃棄物が増えていくが、都・区と取り決めている排出量の見直しが必要か。
- JESCO 通常運転廃棄物の排出量は「月6台、月30tまで」と都・区と取り決めている。一方、設備解体工事による排出量をご説明の上了解をいただいている。今後の解体物も、その都度ご報告して理解をいただきながら進めていく。

- 委員 全般的に、報告のあり方を変えていく時期。間欠運転になる中での操業のあり方、解体に伴う委託業者へのヒヤリハット活動のあり方など、考えていく必要がある。
- 委員長 今までの定常操業とは異なる内容となってくるため、次回以降は、操業状況を念頭に置いた資料の準備をお願いしたい。
- JESCO 承知した。

- 委員 今後、事業所を閉鎖した後の適正処理をどうするのか、他事業所と連携しながら、社会的に安心できる方針を次回に示していただきたい。また、今後、閉鎖するプロセスになるが、次回以降では、施設、従業員はどうなるのか等の情報も含めた内容としていただきたい。閉鎖に向けて従業員のモチベーションダウンによる事故も懸念される。
- JESCO 承知した。

【議題2】東京PCB処理事業所 PCB廃棄物処理施設の解体撤去の進捗状況

資料2に基づき JESCO より説明の後、主な質疑応答等は以下のとおり。

- 委員 解体工事に関する細かい説明ではなく、解体の流れを説明してほしい。例えば、洗浄の有無、濃度に応じた対応方法、工事の時系列に合わせたモニタリング方法、測定時と撤去工事状況の記録など、そういう観点で考えてもらいたい。

- 委員長 多くのスライドを使うのではなく、ビジュアルな写真などを活用していただき、多くのスライドは使わずに参考資料にしていただきたい。質問があれば補足説明することでよい。丁寧な説明は必要だが、質疑時間をしっかりと取れるようにすること。
- JESCO 承知した。
- 副委員長 様々な設備があり、それぞれ洗浄され撤去されるので、次回、付着状況調査の詳細な説明をお願いしたい。また、洗浄方法、濃度基準の定め方、仕分け方法などを含めたプロセス自体の説明もしていただきたい。
- JESCO 承知した。
- 委員 この場は環境安全委員会。環境と安全に対するリスク把握と、そのリスクの回避方法に重きを置いていただきたい。例えば、資料2の31枚目のスライドに、設備内部は洗浄不可という言葉があるが、これに対するリスクの説明がない。また、11枚目のスライドでは、除去分別や洗浄と記載されているが、洗浄行為に対するリスク、洗浄によるリスク低減効果、効果への付着状況の確認方法を丁寧に説明いただきたい。
- 委員長 詳細説明ではなく、各説明では環境安全上の関心事項に絞って説明していただきたい。IPAなどの洗浄剤を用いた洗浄の作業環境、洗浄後の廃液処理の方法も気になるところ。今後は、場合によっては、委員長への事前説明会だけでなく、学識委員へは事前説明あるいは事前の書面質疑応答を検討していただきたい。先行解体ではなく、本格的な撤去工事の段階では、ますます技術的な検討が必要となる。十分に早い段階で資料を用意し、予め書面での質疑を交わした上で当日を迎える運用も検討していただきたい。
- JESCO 承知した。
- 委員 次回以降の報告では、解体撤去廃棄物や洗浄等によって発生する二次廃棄物の発生状況や排出状況を説明していただきたい。
- 委員長 同意見。JESCOは事業所内の設備だけを見ている観が非常に強い。解体撤去に伴う外部からの出入りや、排出者責任として外部に払い出したものの最終的ルートなども含めて説明していただきたい。
- 今後の進め方は、正・副委員長を中心に、事務局とも相談しつつ、次回の準備を進めたてまいたい。
- JESCO 承知した。

【議題3】その他

議題提案なし。

次回は、本年11月下旬から12月上旬にかけて、委員長とご相談の上、各委員と日程調整をさせていただきます、進めさせていただきます。

以上